

## 古墳壁画の保存活用に関する検討会（第3回）議事要旨

1. 日 時 平成22年10月5日（火）14：45～16：00
2. 場 所 明日香村立中央公民館2F研修室
3. 出席者 （委員）  
永井座長、有賀副座長、河上、北田、木下、佐野、関、高鳥、三浦、三村、  
和田の各委員  
（協力委員）  
石川、西藤、舟久保の各委員  
（事務局）  
文化庁：吉田次長、松村文化財鑑査官、栗原古墳壁画室長、串田記念物課長、  
建石古墳壁面对策調査官 ほか関係官  
独立行政法人国立文化財機構：  
東京文化財研究所 北出研究支援推進部長、石崎保存修復科学センター長、  
川野邊副センター長 ほか関係者  
奈良文化財研究所 多研究支援推進部長、高妻埋蔵文化財センター保存修  
復科学研究室長 ほか関係者

## 4. 概 要

- (1) 開会
- (2) 委員及び出席者紹介
- (3) 議事

古墳壁画の保存活用について

①キトラ古墳壁画の集中取り外しの予定等 について、事務局から資料2に基づき説明が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

河上委員：今回で4回目の集中作業とのことだが、今回でどの程度作業が進むのか。

→建石調査官：取り外し作業は来年度までと予定しているところ、今回も順調に進むものと考えている。引き続き安全第一で作業を進めたい。

北田委員：取り外し後の保存環境について、どのように経過を観察するのか。評価するための測定方法など。

→建石調査官：修理施設内の状態は安定しているが、計測装置の数値だけでは安心できない部分もあり、現状視認するなど日常的に行うメンテナンスを中心に考えている。

和田委員：取り外し後の石室の中はどのように維持されるのか。

→建石調査官：石室内では、紫外線灯を間欠的に使用している。定期的に観察を行っており、現在のところ石室の状態は安定している。

②国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想 について、事務局から参考資料1及び参考資料2に基づき説明が行われ、以下のとおり意見交換等が行われた。

関委員：国交省が国営公園をつくる際には、文化財の関係等でこれまでも文化庁とのやり取りがあったと思うが、今回は、これまでに比べても、よりスムーズに協議してもらっていると認識している。

木下委員：（キトラ古墳）本体あるいは、石棺・壁画だけではなく、相当広域が当時の造墓関連を示す地形といえると思う。古墳鑑賞広場といったものをつくっていく際には、これは遺跡の中の一つであるという認識に立って、十分それを保存してほしい。あるいは景観阻害にならないように。そういった部分で文化庁と国交省が十分協議することを望む。

河上委員：施設は「博物館」という名称にしてもよいのではないか。キトラの保管場所が決まると、次は高松塚古墳壁画はどうなるのかという話になる。修理が終了してから高松塚専用の保存施設を新たに作ろうというのではなく、今のうちにキトラの体験学習館の中に高松塚の保管場所も作ってしまえばいいと思う。

（４）その他

事務局より、第６回国宝高松塚古墳壁画修理作業室の一般公開参加者の応募状況について報告された。

（５）閉会

以 上